

川越市地域自立支援協議会 専門部会別名簿

委員を依頼する期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

No.	専門部会	座長	部会長	氏 名	選出団体名等	委託相談支援専門員	主任相談支援専門員 オブザーバー 等 ※太字は新規
1	仕事・活動部会		○	原 恭 子	障害者就業・生活支援センターかわごえ	水沼相談員（きやろっと） 名取相談員（けやき）	【主任相談支援専門員】 ・水沼 友美（にじの会）*再掲 ・佐藤 美幸（さぶり） （市内就労移行支援事業所） ・ウェルビー株式会社 ウェルビー川越 ・INSPIRE株式会社 Be happiness とおり町 ・株式会社リンクス リンクス川越西口
2				小 林 幸 路	社会福祉法人 皆の郷		
3				原 田 健 汰	埼玉県立川越特別支援学校		
4				堀 口 剛	川越公共職業安定所		
5				八 木 大 介	川越市立特別支援学校		
1	まちづくり部会		○	金 本 徳 夫	社会福祉法人 親愛会	山田相談員（のびらか） 茂木相談員（しんあい） 虎谷相談員（ともいき）	【主任相談支援専門員】 ・阿部 浩一（にじの会）*再掲 ・山田 英紀（のびらか）*再掲 ・慈道 宏美（ともいき）
2				阿 部 浩 一	社会福祉法人 川越にじの会		
3				内 山 智 裕	社会福祉法人 けやきの郷		
4				佐 藤 遼 平	社会福祉法人 川越市社会福祉協議会		
5				種 子 幸 奈	弁護士法人 川越法律事務所		
1	こども部会		○	溝 井 啓 子	チューリップ親の会	新津相談員（しんあい） 島野相談員（ともいき）	【主任相談支援専門員】 ・新津 重隆（しんあい）*再掲 ・佐々木 志保（グリッド） ・和田 誠（けやき） 【医療的ケアコーディネーター】 ・島野 直哉（ともいき）*再掲 ・和田 誠（けやき）*再掲
2				木 村 智 美	川越手をつなぐ育成会		
3				佐 藤 八重子	川越市児童発達支援センター		
4				水 見 哲 也	社会福祉法人 ともいき会		
5				湯 宮 薫	社会福祉法人 ハッピーネット		
1	地域移行部会	○	○	高 橋 幸 裕	山梨県立大学	宮田相談員（のびらか） 高橋相談員（けやき）	【主任相談支援専門員】 ・宮田 一久（のびらか） ・山内 智史（ヨハク） 【オブザーバー】 ・戸田 竜也（ヨハク） ・山内 智史（ヨハク）*再掲 （市内精神科病院相談員） ・川越同仁会病院 ・山口病院 ・岸病院 ・西川病院
2				恩 田 尚 美	川越市保健所 保健予防課		
3				樫 村 千 寛	特定非営利活動法人 サポートあおい		
4				中 根 祐 紀	特定非営利活動法人 サポートあおい （ピアサポーター）		
5				野 沢 桂 子	川越市やまぶき会		

*敬称略・選出区分ごとに50音順

*事業所名は略称表記

相談支援連絡会について

1. 目 的

- (1) 市内の相談支援員の連携を強化するとともに相談支援に関する知識と質の向上を図ることにより、相談支援を必要とする方へ適切な相談支援の提供が可能となるよう、地域の相談支援体制の強化を図る。
- (2) 相談支援の実施に伴う地域課題について抽出及び集約を図り、地域自立支援協議会へ課題提供を行う。

2. 参加者

- (1) 市内の相談支援専門員又は市内において相談支援専門員として従事予定である者並びに地域生活支援拠点事業に従事している者
- (2) 市内の保健、医療、福祉等に関わる相談員として従事する者であって、当該連絡会に参加することにより地域の相談支援体制の強化に寄与することが見込まれる者

3. 開催日

原則、毎月第3火曜日若しくは水曜日 10時から12時

4. 内 容

1 部：事務連絡、事業所紹介、課題別研修
・制度の改変等に係る説明 ・各種周知、事業説明 ・課題別研修において、医療的ケア、強度行動障害、高次脳機能障害などの個別テーマや相談支援に関するスキルアップ研修等を開催する。 令和6年度実績：「地域移行支援について」「地域自立支援協議会について」「障害者虐待防止研修」等
2 部：グループ演習、地域課題の抽出及び集約
・6グループを編成し、各グループに委託相談員又は主任相談支援専門員をファシリテーターとして配置した上で、個別事例の検討並びに地域課題の抽出及び集約等を行う。 ・グループは半期ごとに再編成し、各半期の最終月には地域課題を集約した上で地域自立支援協議会へ課題提供を行う。

5. 運営等

- (1) 事務局：障害者総合相談支援センター基幹相談担当
- (2) 企画運営：委託相談員及び主任相談支援専門員並びに基幹相談担当
- (3) 運営会議：相談支援連絡会の企画・運営等に当たり、当該連絡会終了後に開催

■令和7年度開催実績

開催日	内 容	参加人数
4月16日（水）	1部：事務連絡ほか 研修「地域生活支援拠点事業について」 2部：グループ演習	39名
5月20日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「障害者虐待防止研修」 2部：グループ演習	42名
6月17日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「福祉総合相談窓口について」 2部：グループ演習	38名
7月22日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「グループスーパービジョン」 2部：グループ演習	38名
8月19日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「地域自立支援協議会について」 2部：グループ演習	33名
9月17日（水）	1部：事務連絡ほか 2部：グループ演習、地域課題の抽出・発表	39名
10月21日（火）	1部：事務連絡、地域課題の集約・発表 2部：グループ演習（後期グループに再編成）	43名
11月18日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「地域包括支援センターについて」 2部：グループ演習	40名
12月16日（火）	1部：事務連絡ほか グループスーパービジョン 2部：グループ演習	50名
1月20日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「児童発達支援センターについて」 2部：グループ演習	47名
2月17日（火）	1部：事務連絡ほか サービス等利用計画について ほか 2部：グループ演習	44名
3月11日（水）	1部：事務連絡ほか 2部：グループ演習、地域課題の抽出・発表 令和7年度の振り返り	44名

■令和8年度開催予定 ※各回の内容については変更する可能性があります。

開催日	内 容	参加人数
4月21日（火）	1部：事務連絡ほか 令和7年度下半期演習まとめほか 2部：グループ演習	54名
5月13日（水）	1部：事務連絡ほか 研修「障害者虐待防止研修」 2部：グループ演習	49名
6月16日（火）	1部：事務連絡ほか ■主任相談 研修「意思決定支援の実践を考える」 2部：グループ演習	48名
7月21日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「サービス等利用計画の点検」 2部：グループ演習	名
8月18日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「地域生活支援拠点について」 2部：グループ演習	名
9月15日（火）	1部：事務連絡ほか 2部：グループ演習、地域課題の抽出・まとめ	名
10月20日（火）	1部：事務連絡、地域課題の集約・発表 2部：グループ演習（後期グループに再編成）	名
11月17日（火）	1部：事務連絡ほか ■主任相談 研修枠 2部：グループ演習	名
12月15日（火）	1部：事務連絡ほか 研修「サービス等利用計画の点検」 2部：グループ演習	名
1月19日（火）	1部：事務連絡ほか 情報交換会（高齢・児童分野等） 2部：グループ演習	名
2月15日（月）	1部：事務連絡ほか 事業説明「自立支援協議会について」 2部：グループ演習	名
3月9日（火）	1部：事務連絡ほか 2部：グループ演習、地域課題の抽出・発表 令和8年度の振り返り	名

【議題資料】

議題（２）令和８年度の「にも包括」の取組について

令和８年８月７日
令和８年度川越市地域自立支援協議会
第１回地域移行部会

第 1 回川越市にも包括構築に向けたワーキンググループ実施報告

* 開催日時 令和 8 年 5 月 2 5 日（月） 1 4 時 0 0 分 開催

* 場所 川越市保健所

* 参加者 精神科病院相談員、地域移行サービス実施事業所、川越市保健所、
障害者総合相談支援センター、障害者福祉課

* 開催概要

1. 目的

- ・医療と福祉の連携のためのツール作成のため、各分野における「情報のズレ」や必要な情報の整理などを整理
- ・本人支援のために、「誰が」「どのタイミングで」「どんな情報を」必要としていたかを見える化する。

2. 当日の流れ

- （１）趣旨説明・アイスブレイク（２０分）→（２）個人ワーク（１５分）→（３）グループワーク（３５分）→（４）発表・全体共有（３５分）→（５）まとめ（１５分）

3. 成果

「誰が」「どのタイミングで」「どんな情報」を必要としているか、入院時・入院中・退院時の３つの時間軸に基づいて整理することができた。

（※詳細については、資料 1 - 2 「第 1 回 WG 付箋ワークまとめ」を参照）

（全体発表の中での意見）

- ・本人についての基礎情報以外に、人となりや生活情報など、退院後の生活に関する情報も必要
- ・病院等での生活の様子が分かる写真などがあれば分かりやすいが、本人・病院からの同意が必要なため、ハードルが高い
- ・入院時に退院を見据え、関係機関で退院に向けた相談をできる仕組みがあるとよい
- ・早い段階で関係機関が集まり、情報共有ができるとスムーズである

（情報共有の形について）

- ・支援者の技術力に影響されないように、共通の聞き取り項目がまとまったものがあるとよい
- ・入院時にサービス受給者証の確認を行う等、一般ルールがあるとやりやすいのでは

令和8年度 第1回ワーキンググループ ワークまとめ

※太字は複数グループで出た情報 ※ 赤字は医療 緑字は福祉 青字は保健 から出た情報

時間軸		入院時	入院中	退院時	メモ
情報	あって良かった情報	入院時 服薬内容 精神科以外の既往歴服薬管理状況 家族の支援状況 経済状況・収入について 生育歴 病歴 (医療) 施設からのサマリー 入院に至るまでの経過 家族の退院後の意向 入院前の本人の意向 支援者の見立て (福祉) 地域との関わり 病状以外の特性 病識の有無 生活が充実していた頃の情報(環境) 本人の入院へのイメージ 病院側(福祉側)から見た様子的変化 支援体制	入院中 家事能力 (医療) 本人の希望 支援者・支援機関 病識の有無 本人の居住・日中活動先 (福祉) 縛られない環境 NSファミリー 入院中の部屋の写真 良くも悪くも本人にとつての刺激(人間関係等) 病院と連携しているグループホーム等 日中活動の様子 食事状況 買い物状況 上手くいった関わり(医療関係者の) 本人の興味関心、好きなこと 入院中ならかけられる負担 サービスの利用経過 好きな食べ物 強み 以前の相談支援事業所 (保健) 地域移行支援についての理解 日中の過ごし方(OT参加等) 本人と家族の関係性	退院時 本人の好きなこと 真実が露くなった経過 服薬内容・服薬管理の仕方 (医療) 支援機関情報 退院先(グループホーム等) 最終的な住居・日中活動・サービス (福祉) NSファミリー 医療情報 経済状況 感情の問題 反応する環境 回復の経過 活動のレパートリー 生育歴 入院日(地域移行請求時に必要) 障害に関する基本情報(手帳・区分) 不穏時の前兆 対応できる人 家族との関係性 虐待の有無 (保健) 本人のキヤラクター 医療関係者の気がかり 本人の希望	メモ ・院内、院外の生活 ・本人の見立て(医療・福祉) ・Ns、Drの関わり ・キーパーソン(入院時・退院時) ・写真などの視覚情報 ・事務手続き上必要なもの ・支援するのに必要なもの ・基本的な情報 ・病院での状況の共有が必要だがタイミングが分らない ・どうなったら退院を目指す姿の共有を。 ・3か月で退院を目指すのであれば1か月以内には入院中に必要な情報を整理して支援者と病院と共有できる機会があると良い(個別性が高い) ・情報よりもタイミングが重要 ・退院前QCは役割分担がメイン ・介護保険ケアマネから情報連携シートが病院に送付される ・訪問看護も加算有(少額) ・入院時の客観的な情報が必要 ・入院中～退院時の本人の人となりの情報と制度利用のための情報が必要 ・連絡先や他の情報も変化する。
	なくて困った情報	家族の情報・連絡先 入院前の地域での生活状況 病歴(入院歴) 生育歴 内服薬の情報 (処方内容の変更など) 経済状況・金銭管理情報 (医療) 入院中に世話をする人 本人の入院希望の有無 (保健) 飲酒状況	ポジティブ情報 (医療) 支援依頼のタイミング 遠方退院先の社会資源・支援機関 (福祉) IQ、心理検査等、本人の能力の見立て 日中活動の様子 具合が良くなった経過(環境・服薬) 自治体ごとの温度感 本人との連絡手段 区分 本人の希望 緊急連絡先 (保健) 入院することで目指せる姿	経済的状况 (福祉) 入院状況 整容状況 受け入れ地域の情報 転院先情報 不穏時の対応方法 実生活に即した生活能力 コミュニケーション能力 具合が悪くなった経過 病院内の退院支援の方向性 成年後見の申請タイミング (保健) 疾病の理解と受容の程度 入院の受け止め 通院先 服薬の仕方 治療への考え方 本人の病識	

第 2 回川越市にも包括構築に向けたワーキンググループ実施報告

* 開催日時 令和 8 年 7 月 7 日（火） 14 時 00 分 開催

* 場所 川越市保健所

* 参加者 精神科病院相談員、地域移行サービス実施事業所、川越市保健所、
障害者総合相談支援センター、障害者福祉課

* 開催概要

1. 目的

- ・前回、医療と福祉の連携のために必要な情報について、「共有」と「見える化」の整理を行ったものを基に、「活用」の検討を行う。
- ・新たな長期入院を生み出さない、という点を軸に話し合う。

2. 当日の流れ

- （1）趣旨説明（20分）→（2）自己紹介・個人ワーク（15分）→
- （3）グループワーク（40分前後）→（4）発表・全体共有（35分）→
- （5）まとめ（15分）

- ・「連携のしかた（いつ、どのように共有するか）」と「情報共有のしかた（どの情報を共有するか、どんなツールが使いやすいか等）」の 2 つをテーマに検討
- ・「連携のしかた」については、狭山保健所の取り組み（入院後 2 週間以内のブリーフミーティング）を一例として紹介

3. 成果

早期に情報共有や共通認識を持つことについては、ワーキンググループにおいても必要であるとの認識があることが分かった。

（全体発表の中での意見）

- ・ブリーフミーティングについては、実施した方がよい。ただし、初期に集まることには情報量などの限度があるため、「集まる」というところが重要。
- ・ミーティングの主催が誰であってもできるように、会議を円滑にできるようなものがあるとよいのでは。
- ・人と人が繋がることが重要なため、ハードルが低い方がよい。
- ・情報の共有については、病院から本人に対し、地域の方が関わるという話を先にしておくなどで同意を得て実施している例がある。

- ・早期にはオンライン、病状安定している時期は対面（のミーティング）が考えられる。
- ・元からある会議等の活用など、定期ミーティングがあってもよいと考えられる。関係者を把握し、役割分担できるとよいか。
- ・情報共有のツールについては、後日確認する事項が少ない方が望ましいが、書く側の負担とのバランスもある。

精神疾患のある方の支援に関する研修に係るアンケート調査について

* 実施期間 令和8年3月24日（火）～令和8年4月17（金）

* 調査目的 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(にも包括)構築に向けた精神疾患のある方に関する研修を行うにあたり、研修テーマのニーズを把握するため

* 対象者 市内障害福祉サービス事業所等の従事者

* 結果について

1. 回答数 153名

2. 回答者について

○働いている事業所のサービス種類

就労継続支援が最も多く（42件）、次に居宅介護等（32件）、グループホームとなりました。

○所持している資格

介護福祉士が最も多く（56件）、次に資格なし（34件）、社会福祉主事任用資格（29件）となりました。

○回答者の職種について

管理者が最も多く（80件）、次にサービス管理責任者（42件）、生活支援員（29件）となりました。

3. 支援に対する課題について

98%の方が、支援について課題を感じたことがあると回答。

○対応が難しいものについて

「指導や指示が通らない」が最も多く（58件）、次に「病状の悪化」（54件）、「他利用者とのトラブル」（53件）となりました。

対応の難しかった事例については、服薬管理の問題（本人が管理できない等）や、病状等による利用者から職員への攻撃（非暴力含む）などに言及が多くありました。

○受入の難しさについて

受入が難しい場合について、55%がそのような事例があると回答。

その理由について、他害や他の利用者への影響の考慮、利用者自身が利用できる生活状態にないことなどの回答がありました。また、受入側の事業所において、対応可能な知識や技術がない、といった回答も見受けられました。

○課題解決に当たって有効だった方法

訪問看護や相談員など、関係機関や家族との連携・情報共有に言及している例が多く、他には、利用者の特性を踏まえた支援や、利用者の話を聞くなどの例も挙げられました。

その一方、支援に悩んでいる旨の記述も複数見受けられました。

○相談できる窓口について

「相談支援専門員」が最も多く（103件）、次に「事業所内で共有」（91件）、「主治医」（64件）となりました。

○必要な知識や技術

「精神疾患全般に関する基礎知識」が最も多く（85件）、次に「医療機関との連携」（50件）、「統合失調症への対応の仕方」（49件）となりました。

4. 研修について

○参加したい研修

「不穏時の対応（興奮、怒り、症状悪化等）」が最も多く（71件）、次に「事例検討」（65件）、「精神疾患の基礎について」（64件）となりました。

○研修に参加しやすい方法

オンラインが最も多く（91件）、次にハイブリッド（55件）、対面（50件）となりました。

○研修に参加しやすい時間帯

「14時～15時」が最も多く（76件）、次に「15時～16時」（70件）、「10時～11時」（62件）となりました。

「にも包括」の取り組み状況について

1 「にも包括」構築支援事業について

○密着アドバイザーについて

NP0 法人サポートあおい 理事長 樫村千寛氏を密着アドバイザーとして推薦。

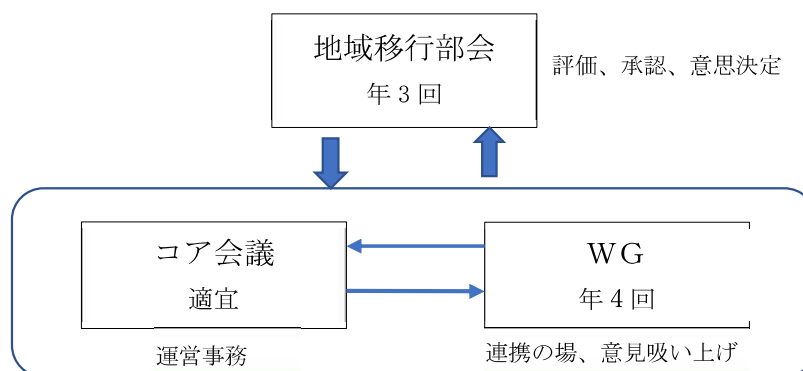
（推薦理由）

- ・川越市でH10年より精神障害分野の福祉事業を運営している法人の理事長であり、主任相談支援専門員として相談業務を担う傍ら、県の「にも包括」推進事業のワーキンググループメンバーとして活動している。
- ・埼玉県相談支援専門協会の理事として、相談支援員の資質向上に関わる事業に携わり、県より相談支援に関わる研修の講師を依頼されている。
- ・川越市では自立支援協議会委員として地域移行部会で精神障害者の地域移行について、精神保健福祉の知見を活かし意見をいただいている。
また、川越市障害者施策審議会委員としても活動いただいている。

○構築支援事業について

令和8年度における取り組みについて、資料4－2のとおり国へ提出。

2 「にも包括」に係る話し合いの場について



現時点は「精神科病院からの地域移行」をテーマとする部会に協議の場を置いているため、精神科入院患者の地域移行・地域定着の推進を実施する。

長期入院者と新規入院者については、それぞれ性質が異なることから、WG内において、まずは「医療と福祉の連携により、新たな長期入院者を生み出さない」という視点から取り組みを進めている。

3 課題に対する取り組みについて

課題①

入院中に医療と福祉のつながりが途切れることにより、入院が長期化する傾向がある。また、医療と福祉が抱える情報や認識に差があり、共有する機会を設けにくい。

取り組み

医療と福祉で認識を共有し、関係が途切れない仕組みづくりを目指し、地域移行ガイド(関係機関向け)を作成する。

○第1回WG (R8. 5. 25)

必要な情報の整理を実施。

⇒以下の意見が挙がる。

- ・本人の人となりなど、生活に関する情報があるとよい
- ・退院を見据え、関係機関で相談できる仕組みがあるとよい
- ・早期での情報共有があるとスムーズ
- ・支援者の技術力に影響されない、共通の聞き取り項目がまとまったものがあるとよい
- ・受給者証確認など、一般ルールがあるとやりやすいのではないか

○第2回WG (R8. 7. 7)

第1回を踏まえ、情報共有の仕組みやタイミングについて検討。

早期の情報共有について、他市の例を紹介。

⇒以下の意見が挙がる。

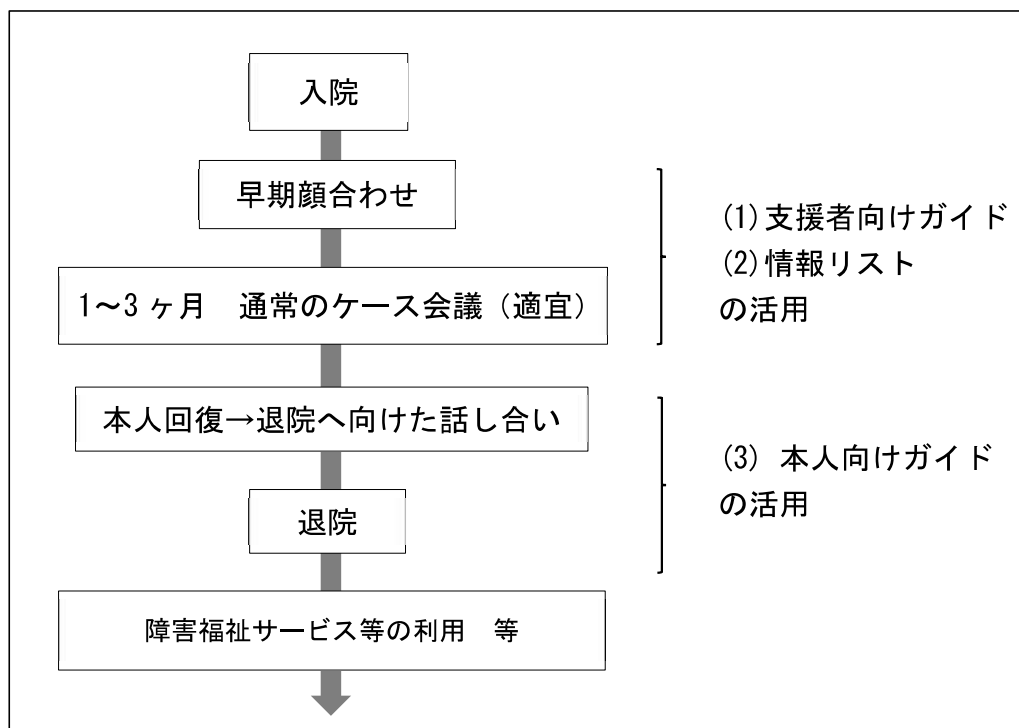
- ・入院時に関係者を集めて行うブリーフミーティング（早期の顔合わせ）はあったほうがよい
- ・情報共有の仕方については、記入式が多い場合、書く側の負担がある

○今後について（事務局案）

WGを踏まえ、医療と福祉が途切れない仕組みづくりとして、以下のツールの作成を検討したい。

- (1)入院患者への支援が途切れないようにするため、入院患者が地域へ移行・定着する際の流れをまとめた支援者向けガイド（仮）
- +
- (2)入院時～退院時に必要となる情報をまとめたリスト（仮）
- +
- (3)入院患者の退院を支援する本人向けガイド（仮）の作成（※次年度以降に検討）

課題① 医療と福祉の連携の仕組み 全体イメージ



課題②

多様な障害に対応可能な高い専門性を持つ障害福祉サービス事業所等が十分でなく、退院後の居住・日中活動先の受入先が限られる。

取り組み

障害福祉サービス事業所等における精神障害分野の専門性を強化するため、精神障害事例の検討会や支援についての研修を行う。

○従事者に対するアンケート（R8. 3. 24～4. 17 実施）

詳細は資料3のとおり。

必要と感じている知識や技術については、「精神疾患全般に関する基礎知識」を求める声が多い。

また、参加したい研修については、「不穏時の対応（興奮、怒り、症状悪化等）」が最も多く、次にほぼ同数で「事例検討」及び「精神疾患の基礎について」となった。

○今後について

「精神疾患全般に関する基礎知識」の研修については、埼玉県精神保健福祉センターにおいて「精神保健福祉研修」（令和8年7月9日～令和9年1月12日、オンデマンドにより実施）が開催されているため、そちらを活用・周知する。

（参考：<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0606/seisinnkennsyuu2.html>）

※市が主催する研修については検討中。

令和8年度ロードマップ(全体像)

※「にも包括」構築支援事業資料

資料4ー2

令和8年度の目標		令和8年度の活動内容	令和8年度の目標指標
* 新たな長期入院者を生まないために、医療と福祉が途切れることのない円滑な支援を行うことができる有用なツール(以下、「医療と福祉の連携ツール」)を作成する。 * 医療と福祉のネットワークづくり。顔の見える交流機会を設ける。 * 支援力向上のため、精神疾患のある方の支援に関する研修を実施	* にも包括協議の場の他、コア会議を実施し、課題解決に向けて実効性を高める * 左記ツール作成のためのワーキンググループの実施 * 医療と福祉の支援者間交流の機会を設ける * 障害福祉サービス事業所等に対し、精神疾患のある方の支援に関する課題や研修に関するアンケートを実施 * 精神疾患のある方を支援する障害福祉事業所等を対象とした研修の実施	①地域自立支援協議会(協議の場)の開催回数(3回) ②コア会議の実施(月1回) ③ワーキンググループの実施(年4～5回) ④医療と福祉の連携ツール作成 ④精神疾患のある方への支援に関する研修実施(1回)	

ロードマップ(アクションプラン)

取組		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
取組計画 1	* 地域自立支援協議会(協議の場)の開催 * コア会議の実施 * ワーキンググループの実施 【ねらい・目的】 協議の場の開催のほか、コア会議を実施し目標に向けて具体案や進捗確認等を行い、より実効性を高める。またワーキンググループを実施し、医療と福祉の連携強化と現場に即した意見の吸い上げを行い、具体的な取り組みを行う。	* 片内担当者打ち合わせ(4月) * コア会議(5月、6月) * ワーキンググループ(5月)	* 地域自立支援協議会(地域移行部会)(8月) * コア会議(7月、8月、9月) * ワーキンググループ(7月、9月)	* 地域自立支援協議会(地域移行部会)(11月) * コア会議(10月、11月、12月)	* 地域自立支援協議会(地域移行部会)(2月) * コア会議(1月、2月、3月) * ワーキンググループ(1月)
取組計画 2	* 医療と福祉の連携ツールの作成 【ねらい・目的】 医療と福祉が途切れることのない支援を行うため、現場で有用な連携ツールを作成。円滑な支援を実現することにより新たな長期入院者を生まない。	* コア会議(5月、6月) * ワーキンググループ(5月) ↓ ツール作成の土台づくり	* コア会議(7月、8月、9月) * ワーキンググループ(7月、9月) ↓ ツールのかたちを検討	* コア会議(10月、11月、12月) ↓ ワーキングのグループの意見を反映し案作成へ	* コア会議(1月、2月、3月) * ワーキンググループ(1月) ↓ 完成
取組計画 3	* 精神疾患のある方への支援に関する研修の実施 【ねらい・目的】 地域の障害福祉サービス事業所の支援力向上	* 障害福祉サービス事業所に向けた研修ニーズアンケート実施⇒結果取りまとめ(4月) * コア会議(5月・6月)	* 地域自立支援協議会にて障害福祉サービス事業所に向けた研修ニーズアンケート結果報告(8月) * コア会議(7月・8月・9月)	* コア会議(10月、11月、12月) ↓ 精神保健福祉連絡会議の活用を検討	* コア会議(1月、2月、3月) ↓ 精神保健福祉連絡会議を活用した研修の実施